

第20回

リズムを表現しよう ～音楽ワークショップ (2)～

学習のねらい

今回は「リズムを表現しよう」として、「リズム」を取り上げていきます。「リズム」は音楽の構成要素の1つですが、サンバのようにリズムそのものが音楽の特徴を形成していることもあります。今回はゲストに高校生の皆さんに参加してもらい、複数の「リズム」を組み合わせた合奏に挑戦しています。「リズム」の面白さや奥深さを感じてください。



講師
末石 忠史

拍とリズムの関係を知り正しくリズムを把握できるようにする

切れ目なく長く伸ばした1つの音には「リズム」を感じられませんが、2つ以上の音を作り出す「時間的な刻み」があることで私たちは「リズム」を感じることができます。この「リズム」を作る要素は音が鳴っているときだけではなく、音を出さない休符も「リズム」を作る大切な要素です。こういった「音」や「休符」が作り出す「時間の刻みの幅」が変わることによって何種類ものリズム・パターンを作ることができます。

また「リズム」は、一定間隔で刻まれる「拍」を基準としています。「拍」があることで「音」や「休符」の長さが明確になりまた、音を鳴らしたり、止めたりするタイミングを正確につかむことができます。

いろいろな拍子の音楽を聴き、特徴を感じる

「拍子」というのは、「拍」を何個かのグループにまとめたものです。例えばチャイコフスキー作曲の『花のワルツ』は、3拍子の曲なので拍を「123123…」と数えます。この曲では1拍目が「強拍」、2拍目と3拍目が「弱拍」となっています。「拍」の中に「強拍」があることで、「拍」に周期性が生まれ、それがまとまりとして感じられます。

ダンスの音楽である「ワルツ」は1拍目に深く踏み込むステップの動作が入るため、作曲家は1拍目に強拍を置いて作曲をしています。どのような曲にするのかを考えるうえで「拍子」は大事な要素になっているのです。また、「拍子」は「リズム」にも影響を与えています。番組では唱歌「海」をメロディが3拍子、伴奏を4拍子という拍子で演奏してみます。この例からリズムと拍子の結びつきを感じることができると思います。

ビートに乗ってリズムを表現し、音の重なりによる音楽の楽しさを味わう

「風になりたい」を合奏してみましょう。この曲には「サンバ」の「リズム」が使われています。「サンバ」は南米ブラジルを代表する音楽で、その軽快な「リズム」は、複数の打楽器アンサンブルにより生み出されます。それぞれの打楽器は異なったリズム・パターンを受け持っていて、それらが組み合わさってサンバ独自の「リズム」を作り上げています。

番組では5種類の打楽器とピアノとで「風になりたい」を演奏します。それぞれの打楽器が受け持つリズム・パターンを体験して、取り組めそうな「リズム」を選び、一緒に演奏を試みてください。

打楽器のリズムが重なることで生じる、組み合わせのおもしろさを感じることができると思います。

ワードファイル

- メヌエット……………代表的なフランスの宮廷舞踊／優雅でゆったりとした3拍子が特徴。
- ポロネーズ……………ポーランドの民族舞曲／ショパンのピアノ曲が有名。
- ボレロ……………スペインの民族舞曲／ラヴェルのバレエ音楽が有名。
- ハバネラ……………キューバ発祥の舞曲／ゆったりとした付点のリズムに特徴がある。
- ガボット……………フランスの宮廷舞踊／アクセントのある快活な2分の2拍子の音楽。

♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ● 「アイ・ガット・リズム」 | 作曲：ガーシュイン |
| ● 「花のワルツ」 | 作曲：チャイコフスキー |
| ● 「軍隊行進曲」 | 作曲：シューベルト |
| ● 「白鳥の湖」から「情景」 | 作曲：チャイコフスキー |
| ● 「海」 | 文部省唱歌 |
| ● 交響詩「わが祖国」から「モルダウ」 | 作曲：スメタナ |
| ● 「風になりたい」 | 作詞・作曲：宮沢和史 編曲：源田俊一郎 |